

地方創生推進交付金事業等効果検証一覧表
 【島まるごと海士町版RESASの構築と活用事業（2020年度～2024年度）地方創生推進タイプ・横展開型】

■評価の基準

A 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに効果が得られたとみなせる場合
B 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
C 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
D 地方創生に効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

■各事業の評価

No.	交付対象事業の名称	実績（単位：千円）		事業概要	事業内容 （経費内訳）	関連KPI	重要業績評価指標（KPI） 【事業開始前からの増加数】		実績と効果		外部有識者の意見	担当課
		内交付金額					指標	目標	実績値	事業効果		
2020年度												
1	全体構想策定	9,000	4,500	海士町版RESASシステムの構築や活用に向けた全体構想を作成する	海士町版RESASシステムの構築や活用に向けた全体構想を作成する：9,000千円	①②③	①海士町版RESASの活用による域内外でのワークショップ、及び官民連携プロジェクトの数				A 地方創生に非常に効果的であった	人づくり特命担当
2	要件定義	15,000	7,500	海士町版RESASシステムの構築に必要な要件定義を行う	要件定義（分析画面デザイン、分析データ定義、権限定義等）、プロジェクトマネジメント：15,000千円	①②③	②海士町版RESASを題材とした教育分野における地域課題解決型プロジェクトの数	①4	①8			
3	システム開発	10,000	5,000	海士町版RESASシステムの構築に必要なシステム開発を行う	分析画面開発（ナビゲーション機能、ダッシュボード、分析メニュー画面）、保守：10,000千円	①②③	③第2期総合戦略のKPIのうち海士町版RESASでモニタリング可能な数	②2	②2	③8		
4	インフラ運用	2,000	1,000	海士町版RESAS構築後のシステム維持に必要なクラウドシステムを選定し、運用する	クラウド運用：2,000千円	①③	④第2期総合戦略のKPIのうち前年度よりも数値が改善された数	③8	③8	④0		
5	普及・活用促進	6,000	3,000	海士町版RESAS分析手法確立、住民向けワークショップの開催	海士町版RESAS分析手法確立、住民向けワークショップの開催：6,000千円	①②④		④0				

地方創生推進交付金事業等効果検証一覧表
 【島まるごと海士町版RESASの構築と活用事業（2020年度～2024年度）地方創生推進タイプ・横展開型】

■評価の基準

A 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに効果が得られたとみなせる場合
B 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
C 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
D 地方創生に効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

■各事業の評価

No.	交付対象事業の名称	実績（単位：千円）		事業概要	事業内容 （経費内訳）	関連KPI	重要業績評価指標（KPI） 【事業開始前からの増加数】		実績と効果		外部有識者の意見	担当課
		内交付金額					指標	目標	実績値	事業効果		
2021年度												
1	要件定義	20,000	10,000	海士町版RESASシステムの構築及び改良に必要な要件定義を行う	プロジェクトマネジメント、要件定義（分析画面デザイン、分析データ定義、権限定義等）：20,000千円	①②③	①海士町版RESASの活用による域内外でのワークショップ、及び官民連携プロジェクトの数 ②海士町版RESASを題材とした教育分野における地域課題解決型プロジェクトの数 ③第2期総合戦略のKPIのうち海士町版RESASでモニタリング可能な数 ④第2期総合戦略のKPIのうち前年度よりも数値が改善された数	①4 ②3 ③4 ④6	①4 ②3 ③6 ④6	A 地方創生に非常に効果的であった	・介護分野においては、海士町版RESASのデータに基づいた課題特定により、ICT機器を活用した課題解決の実証にまで至っており、データ分析による課題特定から解決策の検討、実施まで一連の流れを実現できている点は評価できる。 ・分析可能な分野が増えており、これらのデータを活用した課題解決の動きが他分野においても同様に広がっていくことを期待する。	人づくり特命担当
2	システム改良	10,000	5,000	海士町版RESASシステムの構築に必要なシステム改良を行う	分析画面開発、保守：10,000千円	①②③						
3	インフラ運用	2,000	1,000	海士町版RESAS構築後のシステム維持に必要なクラウドシステムを運用する	クラウド運用：2,000千円	①③						
4	普及・活用促進	1,500	750	住民や民間事業所での普及・活用促進	海士町版RESASシステムの住民や民間事業所での普及・活用を促進し、データに基づく官民連携の施策立案及び検証を実現するための利活用研修（基礎）を行う：1,500千円	①②④						
5	データ入力ツール整備	3,500	1,750	データ入力ツール整備	役場内のデータ収集フォーマット、入力ルール等を整備することでデータ収集・更新業務を効率化する：3,500千円	①②③						
6	分析コーディネーターの育成	5,000	2,500	分析コーディネーターの育成	分析コーディネーターの地域課題分析、データマネジメントスキルの向上を図るコンテンツの作成と研修の実施：5,000千円	①②③						

地方創生推進交付金事業等効果検証一覧表
【島まるごと海士町版RESASの構築と活用事業（2020年度～2024年度）地方創生推進タイプ・横展開型】

■評価の基準

A 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに効果が得られたとみなせる場合
B 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
C 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
D 地方創生に効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

■各事業の評価

No.	交付対象事業の名称	実績（単位：千円）		事業概要	事業内容 （経費内訳）	関連KPI	重要業績評価指標（KPI） 【事業開始前からの増加数】		実績と効果		外部有識者の意見	担当課
		内交付金額					指標	目標	実績値	事業効果		
2022年度												
1	要件定義	10,000	5,000	海士町版RESASシステムの構築及び改良に必要な要件定義を行う	プロジェクトマネジメント、要件定義（分析画面デザイン、分析データ定義等）：10,000千円	①②③						
2	システム改良	8,000	4,000	海士町版RESASシステムの構築に必要なシステム改良を行う	分析画面改良・保守：8,000千円	①②③						
3	インフラ運用	2,000	1,000	海士町版RESAS構築後のシステム維持に必要なクラウドシステムを運用する	クラウド運用：2,000千円	①③						
4	普及・活用促進	1,500	750	住民や民間事業所での普及・活用を促進し、データに基づく住民連携の施策立案及び検証を実現するための利活用研修（応用）を行う：1,500千円	海士町版RESASシステムの住民や民間事業所での普及・活用を促進し、データに基づく住民連携の施策立案及び検証を実現するための利活用研修（応用）を行う：1,500千円	①②④		①6	①6			
5	分析コーディネーターの育成	8,500	4,250	分析コーディネーターの育成	分析コーディネーターのデータ可視化スキル、データ分析に基づく政策提言スキルの向上を図るコンテンツの作成と研析：8,500千円	①②③		②4	②4			
6	DX推進計画の策定	3,000	1,500	DXによって実現する未来の海士町の具体的な構想策定を行う	DXによって実現する未来の海士町の具体的な構想策定を行う。海士町版RESASを活用したDXの流れを活発に起こしていく分野及び具体的なマイルストーンの設定、体制構築といった推進計画を策定する：3,000千円	①③		③0	③0			
7	DX推進の基礎調査	7,000	3,500	DX推進の基礎調査	デジタル技術がもたらす恩恵を最大限に引き出し、海士町でのDXを推進する上で必要となる6. で抽出した分野の基礎調査（現状分析・課題の特定・ソリューションの検討）を行う：7,000千円	①③		④6	④6			
8	DX人材育成のための研修	2,000	1,000	DX人材育成のための研修	海士版RESASを活用した地域課題の把握、デジタル技術を活用した解決策の検討・実行ができるDX推進可能な人材の育成及びデジタル技術の活用を進めるための普及啓発を目的とした研修：2,000千円	①②③						

A 地方創生に非常に効果的であった

・活用促進の観点では、役場や事業所等からデータを活用した施策検討の要望が出ているが、実際にはどのように活用すればいいかわからない場合があり、必要に応じて伴走型の支援の検討も必要である。今後は各課から施策が提示される中で海士町版RESASが活用されていることを期待する。
・DX推進計画を実際に機能させていくには、組織体制づくりも大切である。例えばDX推進準備室を出島組織に、町長・副町長直下に設置し、課横断のメンバーで組成された臨時事務局組織として配置し、3年間でDX化が達成されたら解散、という大義のもとで運営するなど。事務局とは別に全課長と町長で構成されるDX推進本部を設置するのもありか。
・（役場原課の現状課題ヒアリング結果と対応方針に対し）こういった取組は現状業務の改革で手いっぱいになってしまうケースが多く、守り（デジタルによる現状改革）と攻め（デジタルによる新規価値創出）のバランスを、前者に偏重することなく維持していけるかが肝要である。

人づくり特命担当